



陽気は幸せの種

陽気だより

図書出版 養徳社
〒632-0016
天理市川原城町388
TEL 0743 (62) 4503
FAX 0743 (63) 8077

養徳社 検索

ホームページからご覧いただけます

No66

2012 9 15

第7号(24年12月号)から

「陽気」は、昭和24年4月の創刊、今年で63年を迎えます。過去の記事から、その歩みの一端を振り返っていきます。



岐阜

秋風が吹き出す頃になって、チト話は

匹のドラネコがこの日突如、とびついて

アツという間もなく、この始末と分った

名古屋

とは負け惜しみの強い。

事情を聞いた一署員は裁決を下していわく「鶏が人間に犯罪をおかしたる時は、これを鶏務所に入れますが、ネコの場合はいまだ決っておりません。ただあなたの場合はあなたが非常に美男子だから、メスのネコが愛情を感じての行為と思われる。公にされない方がいいでしょう」とは粹すいな。訴えた男、ニヤンともいわ

お古いがさきごろ岐阜
卓郡上八幡町のある
喫茶店で、アイスク
リーム食い競技会と
いうのを催した。十
分間に二十個以上食
えばタダで、一等五
百円、以下三等まで
は賞金がつくという
ので、物好きな連中
が、ワンサと押しか
け「ツメタイ戦争」
と相成った。その結
果、一等は六分三十
秒で四十三個、二等
九分で四十一個、ほ
か二十個以上食った
二十六人は規定通り
タダになったが、代
金を支払わされた連
中、
「この方が医者にか
かるより安上がりだ」





因縁を以て救う

Hさんは、未信の頃、主人の女狂いで悩んでいた。或る日いつそ主人を殺して自分も死のうとまで思いつめ、帰って来た主人に飛びかゝって行った。しかし、男の力には叶わず、かえって打たれて泣いて自分の運命を呪うよりほかなかった。その日から、昼も夜もうつら／＼として、覚めもせず、^{寝惚}睡眠も出来ず、半狂いの様になってしまった。

或る日表を歩いていると、梅鉢の紋附を着た老人がトボ／＼と我が前を歩いて行くのに出会った。幼き日に、母につれられて天理教会の門をくゞったことのある彼女には、それが天理教の先生であることがすぐにわかった。

「このような今、お話でも聞けば心が晴れるかも知れない」

と思つて、その後について行くと、その老人は彼女の知合の家にあがった。彼女もつゞいてあがってその布教師の

知人にする話を聞いていたが、あたかも、自分のことを言うているように胸にこたえた。中に

「因縁なら通らにゃならん、通さにゃならん、通つて果たさにゃならん」

という言葉を聞くや、電光のように過去の自分の姿がひらめいて、

なるほど、夫が、あゝするものもつともだ と感ずるや、胸のしこりも一時に下りたように爽やかになり、

その晩、初めて、熟睡することが出来た。

道の話をだん／＼聞く中に、ただ今の状態を自らの因縁として、喜んで通ろうと決心し、女に夫の子供が出来る時には、自宅にひきとり、自分がとりあげてお産をさせてやった。その時の費用の為に、自分の衣類のすべてを売り払った。

立ち居がかなうようになると、女は彼女の前に手をつき、泣いて前非を謝し、二度と再び御主人の前には現われませんと誓った。主人も

「済まなんだ」

とあやまり、やつと事情が解決したその翌日、赤紙が来て主人は応召してしまつた。

彼女はいよく／＼自らの因縁の深きを思い、爾来五年間、京都において孜々營々として一人の子供を守つて働きぬき、月乏しい中から戦陣の主人に小使をおくり、又貯蓄したお金で、先に質入れした

衣類をすべてうけ出し、終戦となつて主人が帰つて来た時には、その上、二千元の貯金さえ出来、主人が職につくまでの二カ月を、このお金で暮すことが出来たのであつた。

「この五年間、今まで病身でぶら／＼していた私が、一日も寝るといふ日もなくつとめさせて頂けたのもひとえに神様のお蔭です。主人は今では人が変つたように真面目になり、隣近所の方からは、御主人はあなたにはすぎものやと言われている。勿体なくて、ほんとに涙がこぼれます」

と彼女はいつも人に語り、今では一生懸命に人助けに歩いている。 聞書

〔「真実の道」道友社刊より〕

定期購読 中読

お道の家庭雑誌

陽気

◎定期購読の誌代は半年分…1,600円 (送料共)
1年分…3,200円 (送料共) ゆうちよ銀行の青い振込用紙をご利用下さい。

(口座番号 00990-3-17694 加入者 養徳社)
希望の号を指定の上、お客様の住所、氏名、電話番号をはっきりご記入お願いします。

〒632-0016
奈良県天理市川原城町 388 養徳社

養徳社 よもやま話

○……この夏、ラグビーの練習試合を観戦するため、長野県の菅平へ出かけた。

高原なので、さぞかし涼しいだろうと楽しみにしていた。ところが長野県でも「高温注意報」が出るくらい暑かった。とても避暑地とは言えない。見事に期待を裏切られてしまった……。

びつくりしたのは、長野県ではセミの声はほとんど聞かないはずなのに、今年は盛大に鳴いているではないか。

泊めていただいた知人の子供たちいわく、

「子どもおちばがえりに行った時、バスで連れて帰ってきたんだよ」

と。「なるほど」とうなづいてしまった。

○……弊社では毎夏、ひとり三日の休暇をいただく。

子どもが小さいころは、田舎へ、山へ、海へ、とその休暇を利用した。

子どもが成人すれば、自分の自由に使えるものと思つていた。ところが、今は大きくなった息子や娘の彼女や彼氏の親元へ共にアイサツに行くことに使うようになった。

いつまでも子どものための休暇である。

ア——ッ!